

PR

豊作支える農業資材 「北海KSパワー」効果大きく カワタ産業



片山農場の3代目農場主の片山義和さん(左)とカワタ産業の男澤康介さん

2012年設立のカワタ産業(帯広市、川田浩司社長)は、自社で開発した農業資材の販売に力を入れている。特に主力商品の「北海KSパワー0号3」と「北海KSパワー7号」は、作物の収量アップや品質確保に貢献、使用農家もその効果を実感している。

同社ではこれまでに6種類の改良材や散布材を開発、販売。北海KSは「北海道のカワタ産業」を冠した自社ブランド名。「0号3」「7号」はともに十勝を中心にオホーツク、空知地方へと販路を広げる「エース」で、同社では今後も導入の促進に力を注ぐ方針だ。

幕別町中里の40^{ヘクタール}で畑作を営む片山義和さん(47)は、春先に雪が解け、ジャガイモの種を植える前に、土壌改良剤の「0号3」を畑に入れる。1年に1度、ここ数年継続している取り組みだ。

「使っていて、徐々に畑が良くなっている実感がある。実際に収量も上がっている」と片山さん。収穫量を上げるために、肥料だけではなく畑に良い資材が必要と考えていた片山さんは、10年ほど前に同社スタッフに勧められた「0号3」を導入。地力の向上で病気が減り、実際に、秋まき小麦やビートなどの収量は導入前と比較し1〜2割ほど増えているという。

40^{ヘクタール}のうち13^{ヘクタール}で秋まき小麦「きたほなみ」を作付けする片山さんは、夏場に入ると小麦の状態にも目を光らせる。6月末、開花して乳熟する時期に風の影響を受けて倒れてしまうと、身が入らなくなり、収量や品質に大きく影響してしまうためだ。このリスクを少しでも下げるために使用するのが葉面散布剤の「7号」。液体状の散布剤で、徒長抑制などに効果がある。昨年は5月から6月にかけて使用した。使用後のきたほなみは「太く、固くなる印象」で、

強風の影響を受けづらくなっている。昨年、十勝の秋まき小麦は大豊作の年だった。片山さんの畑も例外ではなく、その要因の一つに、「7号」の適切な使用があったと考えている。片山さんは「生育環境があまり良くない年にこそ、しっかりと収量を確保するためにその効果が発揮される製品」とし、今後も継続的に利用していく考えを示す。



〈北海KSパワー0号3〉

竹を発酵させたものを核に有機物で生成。作物の栄養素を確保し、ジャガイモのそうか病などを抑制する。ペレット状で、10^{リットル}あたり90^{グラム}ほどを畑に入れる。



〈北海KSパワー7号〉

秋まき小麦に使用すると、茎が固く太く短くなり、体質強化や倒伏防止の効果が期待される。500〜1000倍に薄めて、葉面に散布する。

そうか病はじめ、さまざまな病害の抑制効果を期待できます。

北海KSパワー0号3

有機土壌改良剤

帯広畜産大学との共同研究肥料です。

期待できる効果

- ・単年度ではなく、複数年の効果が期待できる。
- ・菌のチカラで病原菌の抑制効果が期待できる。
- ・地力を蓄えながら、病原菌対策になる。



土壌や作物に豊富な菌とミネラルが補給され糖度アップを期待できます!

北海KS菌体ミネラル酵素

葉面散布材

期待できる効果

- ・作物の味やツヤを良くする。
- ・作物の糖度アップ!
- ・土壌菌の活性化!



ビート 資材導入事例報告

幕別・岡和田農場さま



2023年4月25日に
直播で播種

8.4^{トン}/10a
糖度 15.4^度

- ・基肥にホウ素入りペレットを80kg散布
- ・ホウ素混合液肥&菌体ミネラル酵素を2023年6月中に10日間間隔で3回散布
- ・6月中に窒素系肥料を追肥
- ・9月に糖度アップ資材を3回葉面散布

葉の枚数も多く根腐病の影響も少ない。青々と生育しました。



(株)カワタ産業

帯広市東1条南11丁目2番地

☎0155-22-2345

カワタ産業

検索

お問い合わせ
ご注文は

TEL 080-5597-6597 FAX 0155-22-2103

